

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム「綾の里」

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	03703000311		
法人名	医療法人 勝久会		
事業所名	グループホーム「綾の里」		
所在地	〒022-0211岩手県大船渡市三陸町綾里字清水125-2		
自己評価作成日	令和4年9月10日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を自然に囲まれており、自然豊かな環境で、四季の変化を感じる事が出来る。目の前には三陸鉄道が通っていてホーム内からその様子を見る事が出来る。
畑で毎年違う野菜を育てており、入居者と一緒に畑作業や収穫を行っている。コロナ禍ではあるが感染対策しながら週に1回バスハイクなど行い楽しんでいる。デイサービス、小規模と併設しているので避難訓練を合同で行ったり、緊急時はお互い協力しあえる環境にある。高台に位置しているので災害面でも入居者、家族、職員の不安も軽減されている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

窓から三陸鉄道の車両運行が見える、木々に囲まれた静かな環境にある。同じ法人の三つの事業所が併設されており、近隣の協力と併せ、災害時などの相互支援の体制が出来上がっている。また、医療法人が運営する事業所であることもあり、毎週の訪問看護師による健康管理と指導、通院時の職員同行と家族への連絡、重度化の場合の系列老健施設への入所など、利用者・家族の安心に十分配慮されている。運営推進会議はコロナ禍により書面会議となっているが、委員からの意見が寄せられ、近隣居住者の協力も得られるなど、有意義な会議となっている。コロナ禍で外出に制限がある中でも、感染予防に配慮しながら土曜日のドライブを続けるなど、事業所の理念を大切にして、管理者、職員がともに工夫し利用者の支援にあたっている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年10月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングや事務所内に入居者にも見える場所に理念を掲示しており、理念を元に年間目標を立てている。	事業所として開所以来の理念「共に笑顔で、本人のペースを大事に、優しいケアを提供します」は、覚えやすく職員に浸透している。年間目標を専門職としての知識を増やすことと、職員間の協力体制を大切に利用者や家族が安心して生活できるよう支援することとしている。	年間計画にある職員研修について、コロナ禍等により予定通りにならない場合があり得るが、開催方法の工夫などにより負担なく実施されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で思うような交流は行えていないが、地元の方から野菜をいただいたり、商店からお中元、お歳暮をいただいたりしている。毎年地区の清掃活動に職員交代で参加している。	コロナ禍で地域との交流に支障があるものの、行事へのお誘いや野菜・お米・魚などの差し入れをいただいている。高齢化が進む地域の大掃除には併設の三事業所が交代で若い職員を出し好評を得ている。綾里地区の「助け合い協議会」にも参加し、地域の一員として貢献し、入居者が近くを散歩した際には、地域の方と挨拶を交わしたり談笑している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便りを近隣の方々や小学校、駐在所などに配布している。また近隣を散歩した際には、近所の方と挨拶をしたり談笑したりとコミュニケーションを図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開催の予定だが、今年度は集合開催1回のみで、その他は書面開催している。書面開催の時は別紙で意見をいただいている。	書面開催が続いているが、その際には委員から意見を提出いただいている。最近では、夜間想定避難訓練の実施についてのご意見があり、一昨日、小雨であったが、夕方五時頃からの訓練に反映することができた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市で行われている地域ケア会議や研修会、地元の助け合い協議会に参加するようにしているが、以前より参加出来ていない。	市の事例検討会や研修会などに参加しているが、コロナ禍の影響で参加回数が減っている。市とは、日頃から関係課窓口に出向き、申請書を提出したり制度上の疑問点等の指導・助言を得るなど、良好な協力関係ができています。成年後見制度の活用については丁寧に対応していただいている。	

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現時点で、実質的な身体拘束をしている入居者の方はいないが、転倒防止の為に臥床時、足元にセンサーを設置している方が4名ほどいる。また離棟防止の為に、居室窓上下にドアロック錠を設置している。定期的に介護安全対策委員と連携し、『センサーを外すフローチャート』に沿って対象者をピックアップし、モニタリング・カンファレンスを行なっている。毎月(奇数月→小規模・偶数月→合同)委員会を開催している。年に2回身体拘束についての勉強会を実施している。	身体拘束廃止委員会、勉強会を開催するとともに、職員アンケートを実施し、身体拘束が行われていないかを振り返る機会としている。防犯のため夜間は玄関を施錠しているが、日中は開放している。転倒防止のために夜間、複数の利用者に足元にセンサーを設置しているため、定期的に「センサーを外すフローチャート」に沿って対象者を選び、モニタリング・カンファレンスを行い撤去について検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会は、毎月(奇数月→小規模・偶数月→合同)委員会を開催し、虐待防止についての話し合いを行なっている。また、年に1回虐待防止についての勉強会を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年入居した方が成年後見制度を利用している。成年後見制度の理解と必要な支援につなげる為、成年後見制度普及研修会に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込みのあった時点で説明を行い、ホーム内の見学をしていただいている。リスクや、少しでも変化のあった際はその都度説明している。また利用料金改定があった時は家族来苑時、又は自宅を訪問し説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を設置しているが、あまり意見は寄せられていない。満足度調査を行い、結果を家族に公表している。入居者へは日常の会話の中で希望を聞いてそれを個別ケアに反映させるようにしている。	通院後の家族への報告の際などにご意見をお聞きするほか、満足度調査を行い意見の反映に努めている。利用者には普段の会話の中で食べたい物が話され、その都度購入し献立に組み入れたり、思いを聞きドライブ途中に妹宅に立ち寄ったこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回の部署会議を開き、意見を発信する機会を設けている。参加できない職員は会議担当職員に申し送ったり、申し送りノートを活用したりしている。普段の業務の中でも意見があれば出せるよう配慮している。	管理者は、各会議や毎朝の申し送り、業務中などで職員から意見や提案を受けている。ゴミ捨てや清掃時間帯の変更、おむつ使用からトイレ誘導への改善、入浴介助の複数による対応など、内容は様々である。管理者は、職員と一緒に話し合いながら支援の在り方を見直し、改善に努めている。	

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けて支援を継続しており、資格取得者には正規雇用採用をする機会がある。いわて女性活躍認定企業、えるぼし認定企業の交付を受けている。その他に男性の育児休暇制度を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署内で年度初めに、年間研修計画を立て、職員が講師になり、研修を行っている。講師を行うにあたり自身の振り返りの機会となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホーム、小規模の管理者が参加し3か月に1回集まり、情報交換を行なっている。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に所長やケアマネより情報提供を頂き、その情報を基に入居される方の要望等に耳を傾けながら対応している。安心できる環境作りを心掛け、入居後不安等無く生活できる様に心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に自宅へ訪問し本人様・ご家族様から不安や心配なこと、また要望等を伺い話をすることで信頼関係を構築する事に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に実態調査を行なっている。また居宅ケアマネの情報に基づき本人様・ご家族様が必要としているサービスを理解し職員間で情報共有している。情報を基に栄養課、リハビリ職員も含めて本人様の必要としている支援を見極めながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事を見つけながらまた、役割を持っていただくことで、やりがいや存在意義を見出し出してくれるよう援助している。また生活歴や趣味などから出来る事を活かせるよう援助している。		

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診へ行った際には、家族へ受診結果のみの報告だけではなく、ホームでの様子を伝えている。またご家族と本人様と直接電話をして頂く機会を設けている。各家庭にホーム便りとは別に個別のお便りを作成し日頃の様子や季節の行事をした際の様子などをご家族様へ伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度も行事の縮小やご家族様の参加を見合わせる対応の為、交流がなくなったが、GH便り等でホームでの様子や日常生活の様子をお伝えしている。家族との関係が途切れない様努めている。	入居前、管理者とケアマネの自宅訪問で生活の様子を聞き取り、慣れ親しんでいることなどの把握に努めている。正月には、入居者に馴染みのある権現様が来て、頭を噛む仕草で厄祓いをし、しばらく交流を中断していた小学校や保育所からそろそろ交流を再開してはとの提案も受け、馴染みの復活を期待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	馴染みの関係作りが出来ており入居者同士で役割分担が出来ている。家事や掃除を積極的に行なっており入居者同士で協力しながら毎日行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会が出来ない状況だが、他の施設へ入所された方などはその施設へ出向いた際は、様子を伺っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の関わりの中から、本人の思いや意向を把握し、申し送りノート、ケース記録を活用し職員間で共有させ、少しでも希望に沿うよう援助に努めている。	職員全員が入居者の思いや意向に関心をはらい把握しようと努めている。自宅が心配で様子を見たいとか、妹に会いたいなどの意向を把握した場合には、通院やドライブなどの機会を利用して立ち寄っている。コーラスに取り組んできた方に音楽を聞かせることで、口ずさむなどの反応が見られたことなど、良い成果が得られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅ケアマネから情報収集し、実態調査時に、本人、家族から聞き取り確認し、生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。		

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者ごとに日々の状態観察を行ない、状態に変化があったら、ケース記録や個人別の申し送りノートに記入し情報を共有している。状態が変化した際には、主治医に相談しケアプランの見直しや区分変更している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員から聞き取り、ケース記録を参考に1ヶ月に1回モニタリングを実施している。リハビリスタッフ、訪問看護師、管理栄養士とも連携し、入居者、家族からの要望を踏まえ、心身・生活の変化や生活機能向上に向けプラン作成に努めている。	日常生活の関わりの中から、本人の思いや意向を把握し、家族の意向を聞き介護計画に反映し支援している。「カラオケを流し、歌を歌う」「手芸として刺し子や編み物をする」「直筆の葉書を書き、家族へ出す」など、家族の協力を得ながら、その人らしい暮らしを支援している。アセスメント、評価の見直しは各担当が行い、ケアマネが取りまとめている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の活動内容や体調の変化、言動を申し送りノート、ケース記録し共有している。また、他職種(訪問看護師、理学療法士、管理栄養士)からの助言などをケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、家族の要望に沿えるよう対応に心掛けケアプランに反映させている。医療連携として医療連携記録を活用している。また、日常生活で起きた「ドキットした事」ノートを活用しアクシデント、インシデントになる前の対応を職員間で共有している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の希望に合わせ、近所を散歩している。3ヶ月に1回発行しているホーム便りを家族、近隣住民、小中学校や駐在所、分遣所等へ配布している。コロナウイルス感染予防の為、入居者との買い物、外食は控えている。月1回の移動図書館は利用しているが、定期的に行っていた散髪は、コロナウイルスの感染状況を考慮しながら対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診していたかかりつけ医を継続して受診しており、状態によっては他の医療機関の受診が必要になった際には家族と相談し受診している。、その都度家族へ結果報告している。	利用者の1人が親族が勤務する医療機関に変更した以外は、継続してかかりつけ医を受診している。職員が通院に同行し、結果を家族に報告するとともに申し送りノートに記載することによって職員全員が情報を共有するようにしている。	

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、訪問看護師の訪問があり、健康チェック、指導を受けている。医療連携記録ノートを活用し、情報の共有に努めている。状態変化時、24時間対応可能な看護師直通電話があり対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	今年入院した入居者はいないが、入院した際は、職員、家族、病院関係者と連絡を取りながら、入院中の様子を聞き、他の職員に申し送っていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の状態変化時には、家族に説明を行なっている。本人・家族の意向を尊重し、重度化に近づく状況では、家族の意向に沿った対応を行ない、当法人の介護老人保健施設への入所支援を家族に説明している。	入居時に看取りはしていないことを説明している。車の乗り降りができない、入浴時にリフトの座位が保てないなどの重度化が見られるような場合には、家族に再度説明し、家族の意向に沿った対応として系列の老健施設へ入所できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護や隣接している小規模多機能ホームと連携し、急変時・事故発生時のマニュアルを作成し、職員間で意見を出し合いながら定期的に訓練を行なっている。また、通報訓練や離棟発生時のシミュレーションも行なっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害に対して早期の対応が出来る様に、地元職員が駆け付ける事が出来るモバイル通信がある。定期的に防災についての研修会を行なっている。夜間の協力体制として、ホーム職員も数名近所に住んでおり、緊急時も備えている。綾の施設合同で、定期的に訓練を行なっており、また法人全体では、実際に気仙苑に入居者と一緒に避難する訓練も行なっている。	防災訓練は併設の三事業所合同で、土砂災害想定と火災想定で2回ずつ行っている。また、台風を想定した訓練で、車で20分の系列老健施設への避難も経験している。運営推進会議での意見もあり、近隣の方々に協力を依頼し、それに応えてもらう仕組みが出来ている。備蓄は、三事業所分を法人本部から送られており、自家発電も備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレへの声掛け等、その方が不快にならない様周りへも配慮しながらケアを行なっている。入居者一人ひとりを尊重し、介助時にはそれぞれのペースに合わせた丁寧で落ち着いたケアを心掛けている。	利用者は、農業、漁業のほか、調理師、栄養士、デパート勤務など様々な経験を持っており、それぞれの個性と人格を尊重しながら寄り添うようにケアを行っている。排泄や入浴などでの本人への配慮はもとより、普段から話しかける語調に気を配っている。	

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者本人の自己決定を急がず、一人ひとりのペースに合わせて対応している。意思表示が困難な方には、複数の選択肢を提案する等、表情を読み取ってケアを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事準備(食材を着る・盛り付け等)・後片付け・掃除・洗濯物たたみ等家事活動は、本人の体調を考慮しながらお願いしている。入居者一人のひとりのペースに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は、以前は2か月に一度定期的に床屋に在所していただいていたが、最近はコロナ禍のため不定期。衣類・寝具の入れ替えは、季節の変わり目毎に家族と連絡を取り合い行なっている。夏祭り・敬老会には、浴衣を着たり化粧して、楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きとり、献立に取り入れている。誕生日の方がいる際は、その方の食べたいものを聞き、提供している。ホームの畑で収穫した野菜も献立に取り入れており、植え付け、手入れ、収穫といった一連の流れを入居者と一緒に行なっている。	食事に關する一連の作業を通じ、入居者の力の活用を考えて支援している。ご飯・味噌汁をよそう事や下膳・食器拭きの作業をできる方にはお手伝いをいただいている。コロナ禍の今は、誕生会などのイベント毎に近くの商店からメニューを取り寄せ、利用者が好きなものを選び楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度、管理栄養士から栄養バランスや体重増減のチェック、献立のアドバイスを頂き日々の献立に活用している。水分摂取量は随時記録表に記入し、水分量を確認・不足している方には好みの飲み物を提供し、摂取を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者に合わせた口腔ケアを行なっている。出来る所は自力で磨いて頂き、困難な場合は声掛けや介助にて対応している。また、義歯を紛失する恐れのある方は職員側で義歯を管理している。		

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄状況を記録・確認している。排泄自立されている方はトイレ後に排便あったか声掛けし確認している。定時のトイレ以外にも、仕草等から尿意・便意を察知しトイレ誘導行なっている。日中は要介助の方含め全員トイレでの排泄を行っており、立位困難な方のみ夜間オムツ対応している。	一人ひとりの排泄が困難な要因を確認し、習慣やパターンに応じた個別の排泄支援を行っている。日中は要介助の方含め全員トイレで排泄しており、立位困難な方のみ夜間オムツを使用している。羞恥心やプライドへ配慮し、排泄の確認は耳元で聴き、気遣いさせないように遠くから見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	部署内で便秘についての勉強会を実施し、理解を深めている。便秘気味の方にはプルーンジュースを提供したり、体操への参加、外の散歩、処方されている下剤を服用して頂き対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室を小規模多機能と共有しており、グループホームは午後に入浴行なっている。その人のペースを尊重し、拒否がある方は時間や曜日をずらし対応している。季節によって菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を使用し変化を持たせている。	入浴は1対1で介助し、冗談を話したりするなど寛いで会話を楽しんでいる。中には職員が浴室の外から見守り、一人で入浴している方もいる。入浴時に浴槽に入る負担感・抵抗感を抱く入居者には、心情に配慮し声掛けの工夫や時間の変更などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲労感や傾眠見られたら居室で横になって頂いている。夜寝付けない方には日中家事手伝いや散歩等活動量を増やし、夜安眠できる様支援している。寝具やエアコンにて室内温度にも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はファイリングし、いつでも確認できる様にしている。受診内容・処方についてもその都度申し送りノートに記入し、申し送っている。処方された薬の内容確認や、服薬時は職員2名でチェック行なっている。バイタル測定や日々の些細な変化に気を付け、訪問看護と連携し症状把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	農業をされてきた方には畑の苗付けや野菜の収穫などを手伝って頂いたり、編み物が得意な方は毛糸など必要物品を購入し、自由な時間に取り組めるよう支援している。掃除等の役割活動は体調やその時の気分を見ながら参加できる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換の為、散歩は日常的に行っており、外気に触れたり草花の変化を感じて頂いている。コロナ禍でも週に1回ほど市内へのバスバイクや、希望に応じて自宅など個人の馴染みの場所にドライブに出かけている。	コロナ禍が続いているが、天気の良い日は周辺の散歩を行い、土曜日には車2台でドライブに出かけている。赤崎の尾崎岬、日頃市の公園など、トイレが確保できる場所を選んで出掛けている。希望に応じて、自宅や兄弟の家などもコースに加えるようにしており、少しでも下車して歩くことを心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームで行なっている。コロナ禍により入居者と店舗に同行しての買い物は行えていないが、本人が希望する物は家族に確認し、職員が購入するようにしている。感染が落ち着いた時には地元の商店に数回入居者と一緒にお買い物に出かけた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	入居者からご家族を心配される言動があった際や、受診報告の際、ご本人と電話を取り次ぎ会話をしている。葉書や手紙を準備し、書きたい時に提供し送付する支援を行っており、ご家族からも郵便が届き喜ばれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季や行事に合わせて共用の空間の飾りを入居者と一緒で作製し飾り、生活感や季節感を味わって頂ける様にしている。室温は入居者の希望に合わせて調節している。大きな音、眩しい光等、都度対応し居心地良く過せる様に配慮している。季節に合った食事や、畑で採れた野菜を提供するよう献立を工夫している。	共用空間は、エアコンと床暖房で温度管理され、明るい室内にはハロウィンの飾り物が吊り下げられている。四季毎に、あるいは十五夜、敬老会など行事に合わせて手作りの作品が飾られている。台所が隣にあり、音や匂いなどを感じ取れる家庭的な空間として、利用者は居心地良く過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの関係が出来ている入居者同士は席を近くし、お喋りを楽しまれている。気の合う入居者同士、居室へ誘ったり誘われたり一緒に過ごしている事もある。リビングに集まる時間は決めず、居室で過ごしたい方にはのんびりと過ごしていただき各自思い思いに過ごせる配慮をしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム「綾の里」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご家族と相談の上、ご本人が使っていた家具や 飾ってほしい馴染みの物や写真などを居室に置 いている。物作りが趣味の入居者には、完成した 物を居室に飾り居心地よく過せる様に支援してい る。	ベッドと洗面台が設置され、TVや自分の昔の写 真、足長の炬燵、筆筒などを自由に持ち込んで いる。持ち込みが少ない方も居るが、新聞紙やチ ラシで折り紙の鶴を作り、居室の洗面台やベッ ドの上に飾っている。キューピー人形を何体も持 ち、洋服を自分で作って楽しんでいる方も居る。 各部屋の入り口には名前と顔写真があり、エアコ ンと床暖房で快適な居室が確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように、入口に名前と写真 を掲示している。トイレには掲示物を貼り、分かり やすいようにしている。トイレマークは、廊下のど こからでも見える位置に設置してあるので、迷っ た場合でも職員がトイレマークがある事を伝える と見つける事ができる。		